

必要なのは非軍事支援 「南スーダンのいまを知ろう」

南スーダンでは、深刻な内戦が続いている。

昨年7月には首都ジュバの戦闘で、政府軍により、国連やNGO職員の滞在するホテルが襲撃され、殺人、暴行、略奪などが起きています。

こうした中、南スーダンの実情や国連平和維持活動（PKO）の安保関連法に基づく自衛隊の新任務「駆けつけ警護」などを学び考える「南スーダンのいまを知ろう」を企画しました。

南スーダンで緊急支援活動を行う日本国際ボランティアセンター（JVC）の現地職員の方から、現地の状況を学び、私たちにできることは何なのか、考えたいと思います。

- 日 時：2017年**2月26日**（日）14時30分～16時30分
- 会 場：**地域振興プラザ4階大会議室**
(京王線稻城駅から徒歩7分：稻城市役所・消防署となり)
- 講 演：**今井 高樹さん（JVCスードン事務所現地代表）**
- 資料代：**500円** （※事前申し込み不要）

- 2016年南スーダン首都ジュバ緊急支援報告（JVCホームページから抜粋）

2011年に独立した「世界で一番新しい国」、南スーダン。独立の喜びもつかの間、2013年には大統領派と副大統領派による内戦が勃発、何万人もの命が奪われ、200万もの人々が避難を余儀なくされました。交渉の末、和平合意が結ばれたのが昨年。2016年4月には暫定統一政府が発足し、戦乱は収まったかのように見えました。

しかし7月、首都ジュバで両派の軍が再び衝突。住民は深刻な被害を受けました。戦闘地域とその周辺では住居が破壊され、略奪が横行し、犠牲者の数は数百人と言われますが、激しい混乱の中、実際の数は誰にも分かりません。市内では、約4万人が一時的に避難したと言われます。JVCは、9月前半および11月にスードン事務所現地代表を現地に派遣。最も必要とされていた食料の緊急支援を実施しました。



避難していた一家。手にした野草で飢えをしのいでいた（JVCホームページから）

主催：「南スーダンのいまを知る会」実行委員会

連絡：小島 TEL/fax042-331-2042・田村 090-8010-0782